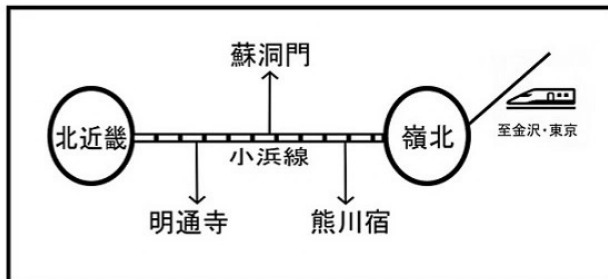


嶺南観光促進の動き 小浜線から始まる観光！



▲小浜線を走行するくろまつ号(松尾寺駅)



▲小浜線を活用した観光の模式図

北陸新幹線敦賀延伸時の嶺南観光需要促進に向け、小浜線を活用した新しい観光が実施されている。10月上旬には、京都丹後鉄道の観光列車くろまつ号が3日間限定で小浜線を出張運転した。この企画は昨年引き続き今年で2回目だ。昨年は西舞鶴ー敦賀間を2日限定で運転されたが、好評だったため、今年は区間と期間を延長し、天橋立ー敦賀間で運転された。また、11月には、北陸線と小浜線を直通列車で移動し、嶺南観光を楽しめる「南北直通列車の旅」が実施された。福井県嶺北から嶺南へ鉄道移動するには、敦賀駅で乗り換えが必要になるが、この旅行では直通列車によって、乗り換えなしで移動できる。このほかにも、「福井県ぐるり若狭路魅力発見ツアー」(小浜線主要駅発着の格安タクシー貸切ツアー)が販売されるなど、観光促進の取り組みが行われている。北陸新幹線敦賀延伸時には、多くの観光客が見込まれている。敦賀から北近畿方面への移動手段として小浜線を利用する利用客も増える見込みである。これらの取り組みは、小浜線を単なる通過利用路線にするのではなく、小浜線沿線に訪れていただき、観光利用路線にするねらいがある。「小浜線を利用するからこそできる観光」の新しい案が求められている。

動物との衝突が多発！

動物と列車の接触事故が多発している。小浜線における動物との接触事故は、10月から12月にかけて、のべ21回に及んだ。これは4日に1回以上発生している計算になる。小浜線は山あいを走る区間がある。動物との接触事故はやむを得ない。小浜線の車両を管理する敦賀運転センターの職員によると、車両の整備で一番苦労する点は、動物との接触による機器の故障や清掃だそうだ。小浜線は海沿いを走る区間があるが、塩害はほとんどなく、動物との接触による整備が大変らしい。地方路線独特な特徴である。列車と動物が接触するケースは小浜線以外にも数多く存在する。接触する動物はシカやイノシシなどが多く、これらの動物は列車のライトで照らしたり警笛を鳴らしても、線路からなかなか離れない。それどころか、列車に向かって突進してくることもある。動物が線路上に居座る原因に、レールがある。シカなどの動物は鉄分を補給するため、レールを舐める習性があり、これが大きな原因だと考えられている。

雪景色が見られる



今年は積雪が見られた。一昨年と昨年は暖冬であったが、今年は本格的な冬が到来した。小浜線においては、雪による列車の運休等が発生したが、大きな事故等は発生していない。

▲吹雪で視界も悪い(松尾寺駅)

ひとこと

4月から発足した当団体もあと少しで1年目を迎えます。これまでお世話になった皆様、ありがとうございました。来年以降もよろしくお祈りいたします。



小浜線PRプロジェクト実行委員会



@obamarailprj



@obamasesen_pr



公式サイト

発行者 小浜線PRプロジェクト実行委員会